

今回のテーマ

生徒の進路選びについて、保護者にどのように関わってほしいと話をしていますか。

子どもと話し合う機会を持ってもらうように声掛けする

干渉が少ない保護者には、自分の子どもが何を考え家庭でどう行動しているかを聞いたり、学校ではどう行動しているかを共有したりすることによって、保護者が子どもと話し合うきっかけを作っている。

生徒の主体性を大事にしながらも、生徒に任せすぎりにしないよう、普段からさりげなく進路について話してほしいと願っている。

進路のことや学習のことを積極的に話題にしてほしいということを伝えている。

「子どもに任せている」という保護者が増えているように感じている。進路希望調査などは話し合いながら記入してほしいと声掛けをしている。

保護者には生徒任せにしないで一緒に考えてください、生徒には保護者の意見も尊重しなさい、と伝えている。

子どもの希望を尊重し、見守ってほしいと伝える

干渉すぎる保護者には、受験をするのは生徒本人で、保護者、教員はサポートする側だということを強調しています。

全て本人任せではいけないが、親が自分の考えや価値観を押しつけないように心掛けてほしいと伝えている。来春の生徒の独り立ちに向けて、徐々に手を離しつつ見守ってほしいと話している。

過干渉の保護者には、子どもでいられる時間より、大人として扱われはじめる時期の方が近いのだから、本人に決断を下すチャンスを与えてほしいと伝えます。

進路について決めるのは生徒だが、親のアドバイスは必要と伝えている。ただし、あくまでアドバイスで、誘導しすぎないようにという注意もしている。干渉すぎる保護者には、子どもから相談されるまで声を掛けたくないほしいと伝えることもある。

子どもの気持ちに寄り添ったり、適宜アドバイスしたりするようお願いする

本人任せの保護者に対しては、一緒にオープンキャンパスに行くことも含めて、子どもの進路選びに関わりを多く持つように話しています。

興味・関心が低い保護者に対しては、進路についてわからないならわからないなりに、子どもと一緒に考えたり悩んだりするだけでよいので、子どもの気持ちに寄り添ってほしいという話をしています。

保護者自身も大学入試の仕組みなどについて理解を深めたくて、干渉するのではなく、そっと寄り添ってあげてほしいと伝えている。

状況に応じて、親として、人生の先輩としてのアドバイスをしてあげてほしい。全てを生徒任せにするのはわずか18歳の彼らにとっては酷なことでもあり、いろいろ口出しをされれば鬱陶しいと感じる半面安心することもあるし、何も口出しされないと楽に感じる半面不安になるものだとも伝えている。

どんな形であれ、まずは子どもの進路選択に大きな期待を持って臨んでほしいと思っています。過干渉になってもいけません、変に遠慮せず、その場でこうすべきだと思ったら実行してくださいとお願いしています。

その他

関心の低い保護者は、大学受験に対する知識が不足している場合が多いので、三者面談等で長めの時間を取り、進路情報について通常より具体的に、丁寧に説明するようにしている。

家庭の事情、特に金銭的な事情については、早い段階でしっかりと話をしたうえで、必要な対策をしてあげてほしいと伝えている。

本人の希望や学力以外の要件について、生徒が納得できるよう、信頼関係をもって接してほしいと伝えている。生徒は、思った以上に保護者の意向や、家庭の経済状況などを気にしている。叱咤激励のつもりで「国立大を」などと伝えると、思わぬ進路変更になってしまうこともあるので、気をつけてほしいと話している。